




計量みやぎ

2017.1.15
 編集発行
 仙台市太白区長町7-22-23
 (一)宮城県計量協会
 TEL 246-2466・FAX 247-1490
www.keiryō.net/

新年、明けましておめでとうござい
 ます。 会員の皆様には、お元気で新春を迎えら
 れた事と心よりお慶び申し上げます。
 東日本大震災から六年目を迎えて、よ
 うやく災害復興住宅への入居が始まり各
 地にあつた仮設住宅が解体されつつあり
 ます。しかしながら、住む所はできても
 働く場所としての工場や事務所はまだま
 だ未整備で、職住のアンバランスが次な
 る課題となっております。

おかげ様で、我が宮城県計量協会と致
 しましては仙台市の定期検査や県下の計
 量器の代検査等、ハカリの定期検査業務
 の方は順調に推移していますが、全国的
 には各自治体の自治事務に任されている
 「計量行政」の足並みが乱れつつあり、
 次なる十年に向けて制度のあり方を見直
 すべく「計量行政審議会」において審議
 されて来りました。昨年十一月に出された
 答申によりまずと、定期検査のみならず
 ハカリの修理時点の「検定」までも市民
 間委託する方向で検討がなされ、国の計
 量制度の根幹が揺らぎ兼ねない状況と
 なっています。これまで、各自治体の自
 治事務を補完する役割で定期検査業務の
 委託を受けて来た各県計量協会としても
 その存在意義が問われる年となりそうで
 す。どのような状況になろうと、国民の
 生活や産業の基盤を支える計量の重要性
 は変わるはずもなく、その計量制度が

年頭のご挨拶



会長
鍋島 孝敏



大きく変わろうとしている今こそ、協会
 の使命を改めて確認して、そのためにも
 健全な財政運営に努めて参る所存です。
 そんな折から、丁度今年の十月五日・
 六日と秋保温泉「ホテル佐勘」にて東北
 六県・北海道計量大会が宮城県当番で開
 催されます。七年に一度巡って来る大会
 ですが、宮城県計量協会としては昨年の
 五月より実行委員会を立ち上げ、理事の
 皆さんを中心に企画を練っている所であ
 ります。計量業界そのものが岐路にある
 重要なタイミングでの大会とあつて、実
 行委員一同力を合わせて意義のある大会
 にしよう、と張り切っています。会員の
 皆様には、奮って多数のご参加をお願い
 しておきます。

毎年十一月一日の計量記念日記念事業
 としての「みやぎ計量のひろば」も「仙
 台市八木山動物公園」での開催三年目と
 なりました。地下鉄東西線の開通もあつ
 て例年に無く大勢の市民の皆様に参加頂
 き、我々が目指して来た本来の計量思想
 の普及・啓発の場となりました。このよ
 うな事業こそ協会の一義的な役割と認識
 し、総力を上げて取り組んで参ります。

今後も、さらなる事業を取り込みなが
 ら強靱な体質の協会にして行かねばなら
 ず、理事の皆様を始め会員の皆様の協会
 運営へのより一層のご理解とご協力をお
 願ひして私の年頭のご挨拶とさせていただきます。

「ふるさと宮城」の「再生」から

「発展」へつなげる年に



宮城県知事

村井嘉浩

明けましておめでとうござい
ます。新しい年を迎えるに当たり
県民の皆様の御健勝と御多幸を
心からお祈り申し上げます。

昨年は、リオデジャネイロオリ
ンピック・パラリンピックで宮
城県ゆかりの選手が活躍されま
した。パドミントン女子ダブルス
に出場した高橋礼華さんと松友
美佐紀さんが金メダルを、卓球女
子団体に出場した福原愛さんと
ウィルチェアー(車いす)ラグ
ビーに出場した庄子健さんがそ
れぞれ銅メダルを獲得され、私た
ち県民に勇気と感動を与えてく
れました。また、石巻市立病院の
再開や三陸縦貫自動車道の延伸
など、震災からの復興が着実に進
み、さらに、医学部の新設や仙台
空港民営化など「創造的復興」と
して種をまいてきた取組が次々
と花開いた年でした。

今年、「宮城県震災復興計画」
(平成二十三年十月策定)に定め
る「再生期」の最終年に当たりま
す。昨年に引き続き、「迅速な震
災復興」、「産業経済の安定的な
成長」、「安心して暮らせる宮城」
、「美しく安全な県土の形成」を政
策推進の基本として、復旧・復興
に向けた施策に最優先で取り組
むとともに、人口減少対策や地域
経済の活性化、地方創生と地方分

権の取組も併せて推進し、平成三
十年からの「発展期」につなげて
まいります。

また、今年には県内で大きなイベ
ントが予定されています。高校生
たちによる熱い祭典「全国高等学
校総合体育大会」と「全国高等学

年頭のご挨拶

あけましておめでとうござい
ます。

日頃より、本市の計量行政を始
め市政各般にわたり、ご理解とご
協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、昨年、本市におきまして
は東日本大震災からの再生・復
興の実現に向けて取り組んでま
いりました震災復興計画期間が
終了し、一つの節目を迎えること
ができました。これも、市内外の
多くの方々からのご支援と、市民
の皆様のご尽力のたまものと考
えております。

今年、十一月に「世界防災
フォーラム/IDRC2017
in SENDAI」が本市で開
催されます。内外の防災関係者が
集い、震災の教訓・知見の発信や
連携を強化する場とともに、仙台
市の復興や防災・減災の取り組み

校総合文化祭」が七月から八月
まで、全国規模の和牛の品評会
「全国和牛能力共進会」が九月に
開催されます。大会を盛り上げ
ようと頑張っている方々ともに
に全国からのお客様を温かくお
迎えしましょう。

仙台市市民局

生活安全安心部消費生活センター

所長 櫻井 浩

をご覧いただける絶好の機会と
なることを期待しております。

また、ご存知のとおり、昨年十
一月に計量行政審議会から「今後
の計量行政の在り方」に関する答
申がありました。今後、計量制度
の改正も見込まれ、本市としても
国の動きなどを注意深く見守つ
ていく必要があると考えます。

貴協会におかれましては、本市
の指定定期検査機関として安定
した計量検査の実施にご尽力い
ただき、円滑な計量行政を支えて
いただいていることに改めて感
謝申し上げます。

引き続き、消費生活の安全安心
の確保や健全な産業活動の推進
のため、ご理解とご協力をお願い
申し上げますとともに、皆様のま
ますのご健勝とご繁栄をお祈
り申し上げます。年頭のご挨拶
とさせていただきます。

迎春

あけまして
おめでとうございます

会 長	鍋島 孝敏	理 事	伊瀬知 衛
副 会 長	千葉 信弘	理 事	高橋 悟
副 会 長	笠原 秀	理 事	吉田 洋
専 務 理 事	草刈 謙一	理 事	二階堂 博
常 任 理 事	加藤 啓二	理 事	三浦 誠
常 任 理 事	嶺岸 優	理 事	山田 勝
常 任 理 事	笠原 建	理 事	坂井 常行
常 任 理 事	鈴木昇二郎	理 事	市瀬 兼司
理 事	安齋 敏行	理 事	川越振一郎
理 事	新井田匡彦	監 事	大湯 澄
理 事	佐藤 正使	監 事	加藤 昌宏
理 事	江刺 茂		
理 事	和田 剛和		

(敬称略)

平成二十八年 東北・北海道計量大会
十月六日(木) ホテルキャッスル



平成28年度 東北・北海道計量大会(山形県)

平成二十八年度東北・北海道計量大会が十月六日(木)山形県山形市「ホテルキャッスル」で開催されました。大会には、国並びに各道県の計量行政機関、計量団体、会員約百六十名以上が集い、開会宣言の後、平成二十七年度量関係物故者への黙祷を捧げ、主催県の東北六県北海道計量協会連合会安孫子初会長の歓迎の挨拶があり、計量功労者九名の表彰が行われました。本県からは大村利昭氏(一財)宮城県公衆衛生協会)が表彰され、表彰者を代表して謝辞を述べられました。

次に大会記念事業として、特別養護老人ホーム大寿荘に「車椅子体重計」が寄贈されました。続いて大会宣言が読み上げられ、満場一致で採択されました。最後に経済産業省産業技術環境局吉岡勝彦計量行政室長など多数の来賓の方々から祝辞を頂戴し、来賓紹介があり大会は終了しました。



計量功労者表彰 大村利昭氏

大会宣言

長い歴史の中で、私たちのくらしや文化を守り発展させてきた計量制度。今更ながら先人の知恵の深さと功績に感謝し、次世代に引き継ぐ使命を心新たにしているところであります。現在の計量を取り巻く情勢を見ると、グローバルな経済発展、最先端の科学技術の開発、地球規模の環境問題等、適正な計量制度の役割はますますその責務の重さを増しており、国民生活の安心・安全を支える制度として確固たる信念を持ち、確かな計量の推進に当たらなければなりません。同時に、豊かなくらしや文化を支える礎であることなどの計量思想の国民的理解を得る努力が必要であります。我々は、計量人としての誇りと使命感を忘れることなく、適正な計量の実施を確保し、経済の発展及び文化の向上に寄与することを命題に、

「くらしを守る確かな基準・・・計量・計測」と
と
「確かな計量を支える世界品質・メイドインJAPAN」
のスローガンを掲げ、実現に向け一層努力することを決意し、本大会の名において宣言いたします。
平成28年10月6日
東北・北海道計量大会

第六十五次 東北六県北海道計量協会連合会総会

計量大会に引き続き、第六十五次東北六県北海道計量協会連合会総会が、会則に従い開催県の安孫子初会長が議長に就き、前年度開催地であった青森県の開催報告を受けてから、議事に入った。各県からの提出議題は次のとおりであった。

- 議題一 指定定期検査機関運営の実情把握について (宮城県)
- 議題二 これからの計量行政省令の見直しの方向性について (福島県)
- 議題三 計量制度の見直しについて (青森県)
- 議題四 連合会総会の次期開催地について (山形県)

議題一は、本県からの提案議題で、平成四年度から始まった行政機関の定期検査業務を担う指定定期検査機関制度の運営について、現在は行政機関の委託費がマインナシールディングなどで年毎に減少し、運営が大変になってきている現状を国の行政機関でしっかりと把握し対策を願う要望。 ※本県は、特定市の指定定期検査機関に指定されて、予算は補助金なので必要最小限確保されているが、他県協会等は委託費なので減額が進んでいる現状を訴えた。 この議題について、吉岡計量行政室長より、全国でも過半数の自治体が指定定期検査機関を活用し定期検査を行っているが、予算・人員確保・技術の伝承について問題意識を持って取り組んでいる。定期検査制度の崩壊等につながることはないよう、自治体、日計振及び各協会と連携を取りながら制度の維持に努めていきたいという見解が示された。 また、日本計量振興協会の河住専務より、本件については数年前より全国どこでもの共通問題となっており、計量業界そのものが危ないという認識を持って行政と協会で話し合いの場をつくり検討する等の助言があった。



山形から宮城へフラッグハンドオーバー

議題二、三は計量制度の見直し状況に係る関連議題を、一括吉岡計量行政室長より、計量士の活用・自動はかりなどの政省令改正の様々な対応策等の検討を勧めていると回答があった。最後の議題は、本計量大会・総会の次期開催地は宮城県で開催されることと決定され、山形県安孫子初会長から本県の鍋島会長へ大会旗が引き継がれるフラッグハンドオーバーセレモニーがあった。



そば打ち体験



加茂水族館クラゲドリーム館

総会後記念講演が、くらげ博士こと村上龍男鶴岡市加茂水族館前館長の、低迷していた水族館運営を、くらげの飼育世界一に成功させた講演を拝聴しました。 歓迎レセプションは、山形の若手グループのお囃子と踊りに溶け込み懇親を深めました。 翌日は、体験学習ということ で、寒河江市にある宮川製粉工場 で、そば打ちの体験をしました。

2016 計量のひろば



今年の『みやぎ計量のひろば』は、仙台市地下鉄東西線が開通してから初めての仙台市八木山動物公園で、宮城県・仙台市・協会の共催で行いました。

当日は、やはり地下鉄が開通した影響で、八木山動物公園駅からの入園者が多く、駅降り口にある西門ゲート会場は賑わい、昨年の1.5倍1,000名近い来場者がありました。それは恒例の飴の111gをはかろうコーナーなどで午前中に景品や飴がなくなってしまうほどの盛況を極めました。

また、今回初めての「ビニールを引っ張ってみよう」の長さ計量コーナーは人気がありました。

応援参加した、ご当地キャラの“むすび丸”に子供さんたちも大いに喜んでおりました。

平成28年
10月29日(土)
10:00~
14:00



むすび丸
手帳



重さ当てクイズ
(ヤギさん)



計量パネルクイズ



ライフライン
計量器



新コーナービニールを
引っ張ってみよう



むすび丸と一緒にパチリ

優良事業所視察研修会

in 茨城

- 常陸那珂火力発電所
- 日本タンク装備(株)

平成28年度の優良事業所視察研修会は、茨城県常陸那珂の優良事業所を会員17名で視察しました。初日の研修先は、東京電力(株)茨城県常陸那珂火力発電所です。車中でいわき市内の放射線予想クイズを行いながら向かいました。我が国の発電は、昭和45年頃にはエネルギー源として石油が大きな割合を占めていました。ところが1970年代の2度のオイルショックを受け、電気の安定供給に大きな不安が生じました。そこで石油に過度に依存してはならないと、現在は原子力、火力(石炭・石油・天然ガス)、水力などの資源でバランスの取れた発電が行われています。

この資源の中でも、石炭は産出地が世界中に分布しており、埋蔵量が豊富で価格も安いなど将来的にわたり安定的に供給できる有望なエネルギー資源として大きなメリットがあるそうです。

今回の視察先の常陸那珂火力発電は、この石炭資源を使用した国内トップの火力発電所です。石炭は主にオーストラリア・インドネシアから外航船で運ばれて来ます。総発電量は、100万キロワット出力の発電機2台を備え200万キロワット(66万世帯分)で、東京へ送電されているとのこと。

もちろん石炭燃焼排ガスによるPM2.5など環境を万全に配慮した設備が整えられており、視察した場内には石炭の微粉すら感じない、きれいな施設でした。

宿に向かう途中かねふくめんたいパーク大洗に立ち寄り、めんたいこの計量状況をチェックしました。翌日はひたちなか市にある、会員企業である燃料油計量器の(株)タツノさんのグループ会社である日本タンク装備(株)ひたちなか工場を訪れました。

工場では、ガソリンスタンドなどの地下に埋設される樹脂タンク、樹脂配管を製造しており、その樹脂タンクの製造工程を視察しました。タンクは内外面とも全て樹脂(FRP)製で、熟練工員の方が何層にも樹脂をコーティングして製造していました。

海外の給油所では地下埋設のタンクや配管のほとんどが樹脂製になっているそうですが、我が国はまだほんの数パーセントの普及率で、ガソリンスタンドの古い鋼鉄製タンクの腐食化による更新義務が数年前に消防署の規制で実施されています。しかし、そのタンクも価格重視で、鋼鉄に樹脂を重ねた被覆タンクが主流で、毎年内面検査を行わなければなりません。

オール樹脂製タンク等は、フリーメンテナンス超耐久性があるので、今後徐々に普及してくると思われます。

ちなみに、ここ日本タンクの樹脂タンク製造は、国内トップ、世界第3位だそうです。

視察の後は、雨に煙る水戸偕楽園の梅林をさっと眺めて帰路につきました。



蒸気タービン発電機



めんたいこの計量



東京電力(株)常陸那珂火力発電所



日本タンク装備(株) FRP地下タンクの前で



FRP地下タンク製造中



 検定証印



 基準適合証印

有効期限シールの場合



 29 / 7

ガス・水道メーター
 H29.7まで使用可

この有効期間のある計量器で、再検定を受けず期限切れの計量器を使用しているのが目立つものに、マンションや貸しビル等で使用している、各室配分の(子メーター)「水道メーター・ガスメーター」電メーターがあります。誤差が大きくなると使用料に不利益が生じているかもしれません。

一度生活に身近な計量器の使用期限を確認してみてください。

(主な計量器の使用有効期間)

- 水道メーター(八年)
- ガスメーター(十年)
- 電力量計(十年)

計量一口メモ

正確な計量器をお使いですか

経済活動の適正化・人の健康安全を確保するなど、国民生活の安全と利便のために使用する計量器は、計量法で特定計量器として指定されており、この特定計量器で取引や公の証明に使用するものは製造(修理)された時、構造と器差について検査し適正なものを合格として使用者のために供給しております。その検査が検定と呼ばれ、正確な計量器には検定証印または基準適合証印が付されています。

しかし、計量器は使用頻度や経年等で誤差が生じて来ます。そこで、誤差が使用に影響を与える期間に至る前に再検定をするよう計量法で有効期間を定めております。

なお、お店で使うはかり等、使用状況などで期間を定められないものは、県・市の行政機関等が二年毎に使用に差し支えるかどうかの器差の検査を行い、適正な計量器を確保する定期検査を実施しております。

宮城県計量検定所からの

お知らせ

一般計量証明事業の主任計量者を対象としたレベルアップ講習会を、平成二十八年度から新たに計画し、十二月二十日に計量協会と合同で開催しました。

受講対象者は、主任計量者試験合格後、五年を経過した方を対象とした講習会で五年毎の講習間隔での受講計画としております。詳しいことは、検定班まで問い合わせ願います。

今年度中元期の立入検査の結果についてお知らせします。

商品量目立入検査の結果は、検査戸数十五戸、検査個数四百五十個を行い、うち量目不足二十四個、不適合率概ね六％でした。

例年、計量時における風袋引きの設定ミス等により量目不足が発生していましたが、今年度中元期についても発生していません。

今後、計量証明事業者・届出修理事業者等の立入検査を実施する予定です。これからも検査態勢を強化するとともに、計量思想の普及啓発に努めてまいります。



平成二十九年

定期検査

実施区域

計量法第十九条（定期検査）及び第二十条（指定定期検査機関）に基づく、仙台市の定期検査は、次のとおりです。

- 青葉区・太白区

平成二十九年

特定計量器代検査

実施区域

計量法第十九条（定期検査）及び第二十五条（定期検査に代わる計量士による検査）による検査区域は次のとおりです。

- 石巻市（大型はかりについては、旧石巻市のみ）・栗原市・塩釜市・多賀城市・登米市・富谷市
- 刈田郡（蔵王町、七ヶ宿町）・黒川郡（大和町、大郷町、大衡村）・柴田郡（柴田町、大河原町、村田町、川崎町）・宮城県（利府町、松島町、七ヶ浜町）

※検査対象の事業所に対しては、当協会より事前に検査日程等をご通知致します。

また、検査を受けていない事業所店舗等で、取引証明に使用している計量器がある場合は、定期検査を受検されますよう宜しくお願い致します。（受検希望や問い合わせについては、当協会へご連絡下さい）

家庭用特定計量器と取引証明

家庭で使うヘルスメーター・ベビースケール・キッチンスケールなどの計量器は、計量器の普及のため安価で手軽なものが販売されております。計量の正確さは、このくらいだという目安に使えます。しかしあまりにもいい加減なものでは計量器の役目を果たさなくなることから、計量法では家庭用特定計量器を販売する場合は、一定の正確性等技術基準に適合したものに家庭用計量器表示マークを付し行うよう規制しております。

ただし、この計量器は商取引や健康診断測定等の証明用には使用できません。取引証明にお使いの方は、計量器なら何でも良い、安価でデザインが良いからといって家庭用計量器を購入しないで下さい。取引証明には、より正確なもので構造等がしっかりし、公的機関の検定に合格し検定証印（または基準適合証印）が付されたものでなければなりません。さらに取引証明に使用する計量器は、行政機関の二年毎の使用検査もあり、合格したものには定期検査済証印が付されます。



参考として、最近の製造輸入された家庭用特定計量器の体重計と調理用ばかりの二、三割が取引証明使用中の許容値を逸脱したものがありました。

ネット販売等で手軽に求められる家庭用特定計量器を求める場合は、製造者等保証のある「家庭用表示マーク」のあるものを、取引証明に使用する場合は、それ以上の正確さが確保されている検定を受けたものを使ってください。



一般計量証明事業所主任計量者試験・講習会のお知らせ

本年度最後の計量証明事業所の主任計量者に認定されるための試験が、宮城県計量検定所で行われます。試験の準備に併せて、計量協会では試験対策の講習会を左記により開催します。

講習会日時

平成二十九年二月七日（火）

午前10時～午後2時

※試験は同日午後2時45分

～午後3時45分

講習会場

宮城県計量検定所

仙台市太白区長町七丁目

二十二番二十三号

受講の申込み

当協会ホームページを参照または協会へ問い合わせ下さい。

ホームページアドレス

<http://www.keiryu.net/>

電話〇二一四六二四六六

協会便り

昨年末に一般計量証明事業主任者の、証明業務の信用度の重要性や最近の計量法の動向等について、レベルアップ講習会を宮城県計量検定所からの提案で今年度から開催しました。

新年を迎え、いよいよ今年十月に迫った本県開催の東北北海道計量大会の準備作業や、十年先に向けての計量制度の改革があるので、大変忙しい年になります。が、会員皆様のご協力を得て何とか乗り切りたいと思っております。宜しくお願い致します。

編集後記

次なる十年に向けての計量制度改革が本年四月にスタートされ、計量界に大きな動きが生じるのではと予想されます。

今後計量行政・業界・計量団体・指定定期検査機関等はどうか、各協会はあれこれと憶測しておりますが、地方計量行政側の動きが少しも見えてこないことが、さらに疑心暗鬼を深めます。

本年は当県開催の東北六県北海道計量大会連合会総会があります。集結する各道県からは、この計量制度改革について活発な意見交換がなされることでしょう。

果たして次なる十年の計量団体の活躍の場は開けるのでしょうか。希望を持って前向きに向かいたいと思います。



常磐線山下駅再開

（表紙写真説明）

東日本大震災の津波で被災した常磐線の浜吉田（宮城県亶理町）と相馬（福島県相馬市）間二十・六kmが懸命な復旧により平成二十八年十二月十日再開しました。写真は浜吉田駅から福島島に向かう途中の山下駅です。なお、全線が開通するまで、まだ三年はかかるそうです。